

新年の章

てんてまりつけばひだまりひろがりぬ

自転車のタイヤの空気去年今年

春の章

囀りにやや傾ぎたる肖像画

花を見てきたのと大き目をぱちぱち

永き日の窓のまじめな四角かな

君の目の中のひだまりにもてふてふ

子も小さきまつげをあげて花見かな

雨足に鈴あるごとし春時雨

春昼の岩の背中を搔いてやる

濃き土の濃き紅梅となりけり

てふてふと橋を渡りて別れけり

くりかへし鳩羽繕ふ日永かな

町なかにぽかんと広場春の昼

星近き山の畑の葱坊主

卒業す校歌の二番歌へぬまま

さす指のほのかに匂ふ春の月

たんぽぽや自転車がたがた揺れる道

囀りや追伸長き子の手紙

秒針の一二一二と日永かな

遮断機のポール突立つ春の昼

春水にはころび入れし鯉の鱗

陽炎や病母の背伸びゆらゆらと